

第3期町田市生涯学習センター  
運営協議会報告書

## 地域における学習支援

—生涯学習センターの役割と機能—

2018年3月

第3期町田市生涯学習センター運営協議会



1. はじめに	1
2. 生涯学習センターの事業と課題	1
(1) 生涯学習センターの主な事業	
(2) 生涯学習センターの課題	
3. 生涯学習センターに期待される役割	3
(1) なぜ今、地域における学習支援が必要なのか	
(2) 町田市地域経営	
(3) 地域の課題	
(4) 生涯学習センターの地域における学習支援の役割	
4. 生涯学習センターの強化すべき機能	6
(1) 連携・協働	
(2) ことぶき大学と市民大学の機能強化への取り組みの方向性	
5. おわりに	8
第3期生涯学習センター運営協議会を振り返って（各委員）	9
資料編	11
委員意見一覧	
① 生涯学習センター実施事業の課題について	
② ことぶき大学と市民大学の機能強化への取り組みの方向性について	
※ 各委員の意見であり、運営協議会の総意ではありません。	
第3期町田市生涯学習センター運営協議会委員名簿	
第3期町田市生涯学習センター運営協議会の議事内容	

## 1. はじめに

町田市生涯学習センター（以下、「生涯学習センター」という）は、市民がいつでもどこでも自由に学び続け、支え合うことができる社会を目指すという基本目標に基づき、公民館で行う事業と市民大学事業などを総合化し2012年4月に開設されました。2014年3月には町田市における生涯学習支援事業の全体像を体系的に示す初めてのアクションプランとして『町田市生涯学習推進計画』が策定され、生涯学習センターはこの計画に基づき生涯学習事業を進めてきました。

町田市役所は『町田市5ヵ年計画17-21』の「行政経営プラン」で、公共施設における行政サービス改革という視点から、生涯学習センターを含む生涯学習部所管施設についてもあり方の見直しの検討を行うことを掲げ、施設の役割を改めて整理・明確化するとともに、運営についても効果的・効率的な手法を検討し、方向性を決定することを求めています。

2016年に生涯学習センター設置後4年が経過し、2017年度から次期『町田市教育プラン』及び次期『町田市生涯学習推進計画』の検討が予定されていたことから、第3期生涯学習センター運営協議会（以下、「運営協議会」という）では生涯学習センター設立時に議論した「役割と機能」について再度協議することとしました。

協議は、主として地域における学習支援に焦点を絞り、人々が学習施設に集い、人と人のつながりをつくり、新たな市民活動や地域活動を創り出すという一連の流れを生涯学習センターが促進するという方向に議論を集約しました。

## 2. 生涯学習センターの事業と課題

### (1) 生涯学習センターの主な事業

生涯学習センターでは、学習情報の提供、学習相談、生涯学習に関するイベント、講座・講演会、各種学級の開催、関係機関との連携・調整、市民の学習の場の提供などを行っています。

#### ① 学習情報の提供、学習相談

町田市役所や近隣大学等の講座・イベント情報誌『生涯学習NAV I好き！学び！』を年間4回、毎回5,000部発行しています。さらに館内の情報コーナーでサークル情報、生涯学習ボランティア情報をはじめ、各種パンフレット、チラシ等を取りそろえ学習情報の提供を行っています。また、これらの学習情報をもとに市民の学習相談に対応しています。

#### ② イベント、講座、講演会

「あなたを励まし、地域を育てる」をコンセプトに、受講生同士が出合い、相互の学び合い、学習のネットワークづくりを目指す「まちだ市民大学HATS」。60歳以

上の市民を対象に、「楽しく学んで豊かに生きる」をモットーとして学習や交流を深める「ことぶき大学」。戦争の悲惨さや平和の尊さについて考え、次世代に語り継ぐ機会とする「平和祈念事業」。市民の市民力を活かした発想で、地域の課題解決のための講座づくりにチャレンジする「市民提案型事業『講座づくり☆まちチャレ』」などを行っています。

### ③ 学級

「障がい者青年学級」は18歳以上の知的障がい者を対象に、「生きる力、働く力の獲得」を目指して、音楽、運動、演劇などのグループ活動を通じた社会参加や学習活動の場を提供しています。

「家庭教育支援事業」は子育てをしている親の不安を軽減するとともに、子育てを通じた仲間づくりにつなげることができるよう、家庭教育や様々な学習機会を提供し、また、地域の家庭教育・子育て支援の担い手となる人財<sup>1</sup>の育成を行っています。

### ④ 人財バンク（講師ボランティア）

自身の知識や経験、特技などを地域社会に役立てたいと考えている市民と、学習活動のサポートを必要としている市民との橋渡しを行う「生涯学習ボランティアバンク」を運営しています。

### ⑤ 関係機関との連携・調整

市民の生涯学習を幅広く支援していくため、市役所各部局をはじめ、大学、NPO法人、地域団体などの関係機関との連携強化に向けた仕組みづくりを進めており、さがまちコンソーシアムとの連携事業、市役所内生涯学習連絡会「お悩み解決LABO」、鶴川地区協議会との連携事業を実施しています。

### ⑥ 施設貸出

市民の学習活動の場として、生涯学習センターのホール及び諸室（17部屋）を貸出しています。利用月の2か月前から抽選・空き予約ができます。また、地域の学習活動の場として、市立小中学校4校の特別教室を開放しています。

2016年度はイベント、講座・講演会、学級活動など82事業を開催し、延べ23,182人の参加がありました。また、生涯学習センターの施設貸出に係る利用人数は174,577人であり、施設の平均利用率は78%となっています。

## (2) 生涯学習センターの課題

「町田市市民参加型事業評価（2015年度）」において生涯学習センターが行う生涯学習講座事業に対して「市民ニーズを適切に把握するための仕組みづくり」や「学習成果の地域還元」、「地域や庁内連携による活動拠点の充実及び内容の充実」などが課題であると指摘がありました。

第2期運営協議会（2014～2015年度）においては、「市民大学再構築に関する検討報告書」の中で、市民大学事業については、「あなたを励まし、地域を育てる」というコン

<sup>1</sup> 本報告書では「人材」について「人財」と表記しています。

セプトに対する地域課題の明確化及び活動に結び付く「市民社会型」の学習の在り方の検討。応募者の年齢の偏りと「ことぶき大学」との差異化。講座づくりの指針の提示。講座の新設、廃止等の意思決定の明確化が課題であると指摘がありました。

これを受けて、生涯学習センターでは講座終了後のアンケート結果に基づき事業改善を進めています。また、市民の学習ニーズに基づき学習成果の地域還元を目指す仕組みとして市民提案型事業「講座づくり☆まちチャレ」を2017年度から新規発足しました。

第3期運営協議会においては、2016年度の協議事項の中で、各実施事業の課題について生涯学習センター事務局から以下のとおり報告がありました。

- ◇ 学習情報の提供・学習相談：職員の相談能力の向上等
- ◇ イベント、講座・講演会（市民大学、ことぶき大学等）：目的、対象の明確化等
- ◇ 障がい者青年学級、家庭教育支援学級：ボランティアの不足等
- ◇ 人財バンク：活動の場や機会の確保
- ◇ 関係機関との連携・調整：幅広い連携の模索
- ◇ 施設貸出：保育室や和室の利用率の向上

これに対して各委員から別紙のとおり意見がありました。（委員意見一覧①参照）

生涯学習センターでは2017年度に課の重点課題として「地域づくり型生涯学習の研究」を取り上げています。

これらを踏まえて、運営協議会では2017年度の主要議題として地域での学習支援の進め方や各事業の地域展開について議論することとしました。結果を以下に詳述します。

### 3. 生涯学習センターに期待される役割

#### (1) なぜ今、地域における学習支援が必要なのか

2011年の東日本大震災をきっかけに、主体的に地域に参画し、地域の人々と協働しながら「共助」による安心・安全な地域づくりをしようという機運も見られるようになってきています。

今まで市民は地域の課題解決の多くを行政に依存してきました。しかしながら地域が抱える課題が複雑化し、財政の点でもきめの細やかさや迅速性といった点においても、行政のサービスだけでは十分に対応できなくなってきました。

一人ひとりが幸せを感じられる地域づくりや自治と支え合いに基づく地域社会の実現のために、学習は重要な役割を果たします。生涯学習センターは学習を通じて市民意識を高め、活動に必要な知識や技術を身につけ、その成果を社会参画や地域貢献活動につなげていけるような実践的な機会を提供することができます。また、さまざまな地域課題に取り組む人財を育て、豊かな地域づくりに寄与できます。

生涯学習センターは、講座・講演会などの多様な手法により市民の学ぶ機会を保障する教育機関です。市民の学習成果は、地域の課題解決や活性化、地域づくりに生かすことのできるものです。運営協議会は、生涯学習センターがこの領域を強化し、地

域の人々とともに「つどい・つながり・つくる」学習を担っていくことを期待します。

## (2) 町田市地域経営

町田市役所は、『町田市地域経営ビジョン 2030 (2017年3月)』<sup>2</sup> (以下、「地域経営ビジョン」という) を策定し、地域と行政が力を合わせ、地域資源を活用して未来をつくりあげていくことを「地域経営」と定義し、未来のビジョンを共有しながら、地域づくりを進めています。地区協議会というコミュニティ組織が立ち上がり、地域の特性と資源を生かして地域の課題を解決するための活動を推進しています。地区協議会には、江戸時代の村以来の歴史的な背景をベースに、地域住民の生活全般に関わっている町内会・自治会と民生児童委員協議会、青少年健全育成地区委員の他、多様な専門分野で活躍する域内の各種団体が集まっています。地区協議会はこのような団体が連携・協力するためのネットワークを築き、情報を共有し、課題について話し合い、取り組むべき事業を自ら選択し、事業を実施することを目指しています。

生涯学習センターに期待される役割を考える時には、これから一層、地域との関わり、特に地区協議会との関係構築と強化が重要になっています。

## (3) 地域の課題

町田市は、東西南北に広く、地域による環境の違いが大きいことが特徴です。それぞれの地域は、一人暮らし高齢者の見守り、介護や介護予防、災害時の対策、町内会・自治会活動の継続、子ども支援など、抱える課題やニーズが異なります。

「地域経営ビジョン」は、地域が抱える共通の課題について、下記のようにまとめています。

### ① 地域社会への意識の醸成

地域への関心の低さや愛着の薄れから担い手が不足しており、地域住民も市職員も「自分ゴト」として関わっていくことが重要です。

### ② 地域団体への支援の充実

地域で活動する人の高齢化が進んでおり、魅力を高める取り組みを行うために組織規模や活動状況にあわせた体制づくりが必要です。

### ③ 地域内連携の推進

地域の未来を共有し、地域住民や地域団体の強みや特性を活かしたネットワークづくりに取り組むことが求められています。

<sup>2</sup> 「地域経営ビジョン」には、2030年のビジョンである「魅力と個性を創造する地域」、「未来と感動を共有する地域」、「愛着と誇りを継承する地域」の実現に向けて、「いいことさがし」の視点と三つの方針「ひとづくり」、「しくみづくり」、「つながりづくり」が掲げられています。

#### (4) 生涯学習センターの地域における学習支援の役割

生涯学習センターは、町田市に1館しか存在しない中であっても、地域の活性化や地域課題の解決に向けて以下の領域で貢献する必要があります。

##### ① 社会参加・地域参加を促す気運の醸成

近年、市民の社会参加意識の向上を通じ、地域の課題を発見し、当事者意識を持って能動的に地域に働きかけていくように、学びを行動に結び付ける市民力醸成が重要度を増してきています。

これからの生涯学習センターには、暮らしよい街を自分たちの手で作っていくという市民自治の精神を育て、福祉・健康・教育・子育て・若者支援・環境・防災・文化などの各分野で社会参加を促す学習支援が求められています。

##### ② 受動的な学習から体験型・能動的な学習を通して人財育成を

市民力を醸成する学びの場として、体験型あるいはワークショップ型の学習機会が一層重要になってきています。人々が集まり、共通の体験や共同作業、意見交換などのアクティビティを通じて、お互いを理解し、皆で課題に対して納得できる解決策を見つけていこうという学習が、市民力や地域力を育てる基本となります。

能動的な学習は、「教える」「教えられる」という関係で学ぶのではなく、異なる経験や知識を持った参加者が双方向に発信し、アイデアを共有し、認識を広げ、視点を変えていく、相互に学び合う場です。こうした体験による学びは、学習者一人一人に変容をもたらすとともに、参加者相互の相乗効果によって、創造的な成果を生みだします。そのために生涯学習センターは、地域住民・関係団体等の調整役となるコーディネーターや地域住民等の意欲・力を引き出すファシリテーターの育成も視野に入れた能動的な学習の場を提供する必要があります。

##### ③ 学習と社会をつなぐ循環型学習へ

生涯学習センターには、学習者一人ひとりが主権者として、自ら学んだことを生かしたいと思える地域社会の実現を目標に「学習と社会をつなぐ」役割があります。市民が学習を通じて身に付けた知識や技術を社会参画や地域貢献活動につなげていけるように、学習者を支援していくことが生涯学習センターには求められています。

生涯学習センターの職員には、町田市全体あるいは地域の学習基盤全体を常に俯瞰し、さまざまな行政課題や地域課題を焦点化し、行政の他部署と関連する事業を横断的につないでいく力が必要です。そして、統一性や連続性を持って連携・協働の機会を作り、地域づくりの実践の場へ学びを広げていくことが期待されます。

そのためには、新たなチャレンジを可能にするための充実した職員体制と研修環境が不可欠です。

## 4. 生涯学習センターの強化すべき機能

### (1) 連携・協働

#### ① 地域の「学習の場」との連携

町田市が各地域に生涯学習施設（拠点）を設置していくことが困難な状況にある中で、生涯学習センターが地域の学習支援を進めていくためには、各地域で住民が自主的に運営する「学習の場」と生涯学習センターが連携・協働して事業を進めていくことが必要となります。

地域に学習の場があることで、子どもから高齢者まで全ての方が身近な地域で学び、身近な地域で学習成果を発揮することが可能となります。

地域で学ぶことにより、地域に誇りを持つ、あるいは地域を大切にしたい気持ちが芽生えてきます。さらには生涯学習センターと地域の学習の場が連携しつながっていくことで生涯学習センターの受講生の中から地域で活躍する方が出てくる事も期待されます。

#### ② 地区協議会との連携

町田市役所では市民協働による地域社会づくりを推進するために、町田市 10 地区に地区協議会の設置を進めており、現在 9 地区で活動が始まっています。

地区協議会は、地域の特性と資源を生かして地区の課題を解決するための組織です。町内会・自治会連合会の地区連合会、青少年健全育成地区委員会、民生児童委員協議会の 3 団体が中心になり活動をする事が基本になっていますが、地区協議会が交流の場となり新たに地域で活躍してくれる人や団体との出会いも期待されています。

生涯学習センターは、地域に出向き、地域住民との交流・学習相談を通じて、地域の学習課題を明らかにします。その課題解決に向けての講座づくりを地区協議会と協働して進めていくことが必要です。加えて、生涯学習センターには、地域の課題を解決するための人財や団体を養成する講座を行うことが期待されています。

例えば鶴川地区協議会における「3 水スマイルラウンジ」などの地域の「学習の場」との連携・協働を進めていくことで、地域住民の学び合いが深まり、ゆくゆくは地域住民が自主的に運営し、地域の課題を住民自らが考え、学び合いながら解決していく“地域発の生涯学習拠点”の開設が期待されます。

#### ③ 世代間交流

生涯学習センターが地域で様々な関係機関と連携を進め学習支援を進めていく上では、世代間交流がポイントとなります。地域で育つ子どもは学校や家庭だけではなく、地域の大人と関係をもつことで様々なことを学び、社会に出てからの大きな力となります。また、地域の大人とりわけ高齢者が長年培ってきた知識や経験を後世に伝えていく上でも世代間交流は大きな効果をもたらします。

生涯学習センターが実施する事業は現状では、世代間交流があまり出来ていませんが、本来、子ども、子育て世代、高齢者など年齢で対象を分けず、誰もが興味やテーマに沿って自由に学びを選び、同じ場所で学習できることは生涯学習センターの強み

であるはずですが。この強みを生かし幅広い年齢層と一緒に参加・活動できる事業を地域センター（市民センター、コミュニティセンター等）や学校、自治会館、空き家などを利用して行うことで、より地域密着型の事業が展開できると考えます。事業の実施にあたっては講座修了者（会）やボランティア登録講師を中心に市民同士の学び合いを考慮した事業展開を進めていくべきと考えます。

## (2) ことぶき大学と市民大学の機能強化への取り組みの方向性

ことぶき大学と市民大学では、個人の自立に向けた学習だけではなく、学習後のサークル作りや習得した知識や技術を生かすボランティア活動、現代的課題や社会的課題の学習を通して、人々の絆づくりや市民の意識向上に一定の役割を果たしてきました。「楽しく学んで豊かに生きる」を目的としたことぶき大学と、「あなたを励まし、地域を育てる」を目的とした市民大学は、そのような役割を果たすための中心的な事業として長年にわたり実施されています。

しかしながら、社会状況の変化、公共性の転換、新たな市民ニーズ等も踏まえて、生涯学習センターの期待される役割も大きくなり、広がりを見せています。

特に、地域における学習支援へ対応して、学習と社会をつなぐ循環型学習を促進するという新たな役割との関連から、これを達成するには受動的な学習から体験型・能動的な実践的な学習を通じて人財育成を図ること、卒業後学びを活かす出口戦略を用意しておく必要があります。ことぶき大学や市民大学の機能強化については、各委員から具体的な提案が多数寄せられ、以下のような取り組みの方向性が示されました。

- ① 安心して豊かな生活を送ることができるよう、市民みずからが町田市の現状を知り課題を見つけ、解決に主体的に取り組めるよう、学習の目的、プログラム、学習方法等を明確にし、地域の学習を深める。
- ② 学習方法としては、知識として学習したものが実際の活動に活かせるようにするため、ディスカッション、フィールドワーク、インターンシップ等の体験型の学習を積極的に取り入れる。
- ③ 生涯学習センターには、市民から地域活動で困ったことや知識や技術で不足していることなどのフィードバックを受け、適切な情報提供を行ったり、関係機関との連携を結んだり、そのための講座を組むなど、市民の地域活動を学習面から支援していく体制を整える。
- ④ 「楽しく学んで豊かに生きる」と「あなたを励まし、地域を育てる」のコンセプトを大切にしながら、ことぶき大学と市民大学について、既存の講座の再編・拡充、両大学の統合発展、大学院新設等の改革案の検討を進める。

（委員意見一覧②参照）

## 5. おわりに

生涯学習センターは、様々な事業を通じて人々の絆づくりや市民の意識向上に一定の役割を果たしてきましたが、近年、地域の活性化や持続可能な地域づくりに関連して、新たな市民活動や地域活動を促進する役割への期待が大きくなっています。

今回、そのような状況を踏まえて、地域における学習支援への対応に焦点を当て、強化すべき機能について検討しましたが、次期『町田市教育プラン』及び次期『町田市生涯学習推進計画』の策定にあたって、これらの議論が活かされ、将来、適切な形で実現されることを期待します。

ことぶき大学と市民大学のあり方に対しては、多数の委員から改革案が出されました。それぞれ、名称、学習対象、学習方法、カリキュラム内容、卒業後の活動等について深く思案されており、いずれも魅力的な提案であります。今後の運営協議会では予算や人員も考慮しながら、適切なステップを経て、一定の案に絞り込み、実施に移されるまで引き続きサポートしていただきたいと思えます。

生涯学習センターの役割や機能に関しては、生涯学習センターでしかできない学習権を保障するような事業（障がい者青年学級等）、学校との連携、世代間交流、国際交流、子育て・若者支援など、他にも検討すべき数多くの課題が残されています。これらの課題についても、次年度以降、運営協議会の場において取り上げ、課題の解決に向けて提言していくことを期待します。

## 資料編

### 第3期生涯学習センター運営協議会を振り返って（各委員）

#### <柳沼会長>

今期のテーマは、生涯学習と地域の係わりを問うものでした。市内に1館という恵まれない環境の中で、生涯学習センターは、利用者及び利用者がでない方も含め地域に対してどのように働きかけができるのかについて模索しました。今後も、地域における住民主体の学びについて取組みたいと思います。

#### <岩本副会長>

2年に渡る議論の中で、地域に学ぶ主権者の、成長・発達を支える公的社会教育に課せられた課題の大きさを改めて痛感しました。社会教育は法律に根拠を持つ公教育の一環でありながら、学校教育に比べて行政の認知が不足しているのではないのでしょうか。市民の一員として、関係各位の一層の奮起を期待します。

#### <辰巳委員>

町田では既に、生活のさまざまな課題に対しての市民活動が活発です。そうした状況を見ると、学びの成果を社会に還元するという社会教育の役割は、一定程度果たせたと評価できる。「つどい・つながり・つくる」場としてのセンターに、次のステップを期待します。

#### <中村委員>

広い視野で思考し地域活動に真摯に取り組まれる方々に出会え、とても勉強になりました。ご一緒できたことに感謝するとともに、委員の一人ひとりの豊かな知見や実践が繋がり、多様な主体が協働する生涯学習センターとして発展してゆくことを願っています。

#### <大野委員>

子どもの自由な遊びを保障し、年齢制限を設けず誰もが来られる居場所として冒険遊び場活動に携わっています。委員をさせていただき、冒険遊び場は生涯学習における実践の「場」と再認識しました。活動で得たことと、委員としての「学び」との良い循環ができたと思います。

#### <島田委員>

生涯学習は長い間貴重な役割を果たしてきたが、急激な社会情勢の変化、特に少子高齢化・人口減少社会・人類未踏の経済環境等により、我が国の将来が懸念されています。世の中の変化に应变何が学びとして適切かを見極め、なお一層市民に支持される生涯学習を目指して欲しいです。

#### <白崎委員>

生涯学習センターが市民にとってチョコット立ち寄りたい、交流したい、相談に乗ってもらえる、そんな市民に愛される学びの場所であって欲しい。生涯学習センターを次の世代に残したい。そんな思いで運営協議会活動をやってきました。

#### <前田委員>

運営協議会を通じ様々な活動をされている方、組織を知ることができ感謝です。また、「生涯楽集（がくしゅう）センター」となる為には事業だけでなく運営協議会の在り方再考も必要と感じた2年間でした。今後も何かの形で町田市生涯学習（楽集）に係われれば良いと思っております。

#### <太田委員>

私は市内小学校で学校支援ボランティアコーディネーターをしており、学校教育関係者として第3期生涯学習センター運営協議会に参加いたしました。学校の中では様々なボランティア活動を通して子供たちと地域の大人の世代間交流が活発に行われています。それは双方にとって大変意義のあることです。今後は広く学校外に於ける地域と子ども達を結びつける役割を生涯学習センターに期待したいと思います。

#### <陶山委員>

地域づくり活動をしている中で、共に学び合う仲間づくりの大切さに気づきます、支える人も支えてもらう人も、一緒に学んだ経験があるからこそ支え合えるのだと思います。地域住民が運営をする「地域生涯学習センター」の設置をあきらめずに取り組んでいきます。

#### <中里委員>

この2年間、私自身考えがまとまっていなく、そのまま過ぎてしまったと反省しています。「5のおわり」に書いてある事を、年度当初から取り組んでいけば具体的な事が見えてきそうな気がします。次年度期待しています。

#### <上村委員>

学生ながら生涯学習センターの各種事業について協議する側に立たせていただきました。多様化する学習ニーズや、学習に関わる機関・団体との連携や協力など課題は山積みですが、学びが自身を動かし他者に伝わってゆく。そんな個人を磨くヒントになればよいと切に願っています。

委員意見一覧① 生涯学習センター実施事業の課題について

市民大学事業

事業名	課題	意見等
市民大学事業	<p>課題 その1 第2期生涯学習センター運営協議会報告より 「市民大学再構築に関する検討報告書」</p> <p>①「あなたを励まし、地域を育てる」というコンセプトのうち、市民ニーズを重視した「あなたを励ます」型の学習は当初の目的を果しましたが、市民活動やボランティア養成を重視した「地域を育てる」型の学習は、プログラムづくり、学習の循環、出口戦略が不明瞭です。地域課題を明確にし、活動に結び付く「市民社会型」の学習の在り方を検討する時期に来ています。</p> <p>② 応募者の年齢が高いことは、学びに熱心な高齢社会の反映ですが、「ことぶき大学」との差別化が難しくなっています。このような状態が続くと、地域社会や地域文化を担う次世代の人材を生み出せなくなる可能性があります。</p> <p>③ プログラム内容について任されている「プログラム会議」に、講座づくりの指針が示されていないため(20年以上続くなかで、明確にされなくなってきた)、従来の枠組みを超えての新しいプログラム作りが難しい状態にあります。</p> <p>④ 市民大学運営協議会の解散以降、講座の新設、廃止等の意思決定が曖昧になってきています。また、生涯学習センター運営協議会、プログラム委員、担当するセンター職員との意思疎通が不十分であり、役割分担が明確とはいえません。</p> <p>課題 その2 まちだ市民大学HATS事業の評価と改革の方法</p> <p>①事業ごとの評価＝生涯学習センター運営協議会での事業評価 ②市民大学全体の評価は？ ③評価をうけて、だれが継続あるいは改革の判断をし、具体案を提案するのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ことぶき大学と講座の内容が重複するものがある。</li> <li>・20代、30代の受講者を増やす方法を検討されたい。</li> <li>・市民大学の指針(プログラムごとの個別の指針)が必要ではないか。</li> <li>・グループディスカッションを有意義に行ってほしい。受け身な学習から、主体的な学習にしていくには、学習後のディスカッションを有効に行うことだ。地域の基盤になる人材を育てることが、社会教育の要である。</li> <li>・陶芸講座の応募者の低下の原因の一つが「ブームが去った」と考えると、今の市民のニーズにあった講座への移行を検討の時期ともいえるのかもしれない。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講座の内容は年々、非常に複雑・高度で多岐にわたってきており、全体をどう把握するのか、課題である。</li> <li>・プログラム委員の企画の意図は評価者には完全に伝えられていない。</li> <li>・運営協議会での評価は、数値や参加者のアンケート等から推し量ることしか出来ない。</li> <li>・なるべく委員も参加すると良い。</li> <li>・市民大学については、別途議論の場が必要。</li> <li>・運営協議会で出来ることは限られている。</li> </ul>

委員意見一覧① 生涯学習センター実施事業の課題について

公民館事業

事業名	課題	意見等
市民企画講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画の選考において、既に企画能力を十分に備えた団体の企画が採用される可能性が高いことや選考過程の透明化が課題となっています。</li> <li>・テーマによっては、「政治的中立性」の確保が問題となる場合があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマをあらかじめ設定して募集する。</li> <li>・選考過程を透明化する。</li> <li>・基準を明確にする。</li> <li>・企画者が、結果に納得して、次回にフィードバックできるしくみがあるとよい。</li> <li>・市民あるいは企画者自身が参加してプレゼンテーションを行う、公開審査を行ってはどうか(提案)。</li> </ul>
平和祈念事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市ならではの意義ある事業であるため、プログラムを多彩にし、様々な世代の方に参加いただけるような新しい工夫を、毎年継続する必要があります。</li> <li>・広く周知したり、高校生や大学生の参加を促すPRの工夫が必要です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生・大学生の参加も増えるように、さらなる充実・発展を期待する。</li> <li>・学生に企画を依頼するために、学校が行うボランティア等の体験活動の一環として採用してもらおう。⇒学校(大学・高校)との連携(提案)</li> <li>・さがまちコンソーシアムと協力する。</li> </ul>
家庭教育支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもセンターや保育園などで実施しているひろば事業や育児講座等と差別化を図り、目的や対象を明確にする必要があります。</li> <li>・生涯学習センターで学んだ内容を活かして、地域での支援活動が行えるよう、関係する団体や施設との連携が必要です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で活動している団体(NPOを含む)をプログラムの中で取り上げて周知して欲しい。</li> <li>・土日の開催を行ってほしい。</li> <li>・地域で子どもを育てるという視点から、父母だけでなく、祖父母・地域の高齢者等ボランティア、様々な人々が地域での子育てにかかわることができるような社会をつくるための講座を行ってほしい。</li> </ul>

委員意見一覧① 生涯学習センター実施事業の課題について

公民館事業

事業名	課題	意見等
障がい者青年学級事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア不足が常に大きな課題であり、ボランティアの確保の工夫が必要です。活動を周知し、活動の魅力を伝えることが重要です。</li> <li>・社会教育事業として継続的に新たな参加希望者を受け入れるために、学級運営の工夫が必要です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週の夜間の会議や、一日がかりで行う学級運営等は、学生が継続的にボランティア活動を行うためには、ハードルが高すぎる。</li> <li>・継続的に活動し、振り返りをしなければ、ボランティアの意味を捉えられない。大学等のゼミに盛り込んでもらうと良い。</li> <li>・福祉・介護の学部がある大学だけでなく、特別支援学級の教師を目指す学生も視野に入れ、教育学部のある学校にも働きかけてはどうだろうか。</li> <li>・町田の丘学園の卒業生が増えている。青年学級への潜在的ニーズは高いので、新しい学級生の受け入れを進めて欲しい。</li> <li>・高齢期に差し掛かった障がい者の受け入れ先は、生涯学習センターだけで背負う問題だろうか。</li> <li>・アクティブシニアの活用をどうすすめるか。</li> </ul>
ことぶき大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他部署で実施している高齢者向けの講座と差別化を図り、目的や対象を明確にする必要があります。</li> <li>・市民大学事業との差別化を図り、目的、対象等を明確にする必要があります。</li> </ul>	<p>※市民大学との違いについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名称も同じ「大学」で違いがわかりにくい。</li> <li>・受講者の年齢が市民大学と重複している。</li> <li>・抽選で漏れる受講者が多い。</li> <li>・地域開催と、それによる講座数の増加を期待する。</li> </ul> <p>※ことぶき大学の方向性について</p> <p>◎趣味・余暇活動としてのことぶき大学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民センターを活用して、地域で講座を行い、地域での高齢者の居場所づくりとして、生涯学習センターが積極的に役割を担って欲しい。</li> <li>・市民大学と連携し、市民大学の修了生による講座を地域に出ていって、ことぶき大学として行う。</li> </ul> <p>◎シニア活躍のきっかけの場としてのことぶき大学。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ学習等を行い、高齢者のより積極的な学びを支援する。</li> <li>・孫育て法や、地域での子育て、健康体操の推進など、地域の課題に対応する学びの提供。</li> </ul> <p>※運営に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・応募者多数の中、受講者が限られていることは残念。</li> </ul>

委員意見一覧① 生涯学習センター実施事業の課題について

公民館事業

事業名	課題	意見等
<p>その他の事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民団体、大学、庁内部局と連携した事業を実施することで、幅広い事業展開、地域展開を模索する必要があります。</li> <li>・利用者交流会やセンターまつりなどを開催し、市民が生涯学習センターをどのように活用していくかを共に考える場を提供します。</li> <li>・コンサート等をとおして生涯学習センターの周知につとめます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き盛りのビジネスマンが平日19時スタートの講座に間に合うように町田に戻るのは厳しい。</li> <li>・今後も大学との連携を継続し、専門的な学びの機会を提供してください。</li> <li>・図書館やことばらんどと共同企画すれば、各施設の紹介にもなる。高校生、大学生にボランティアサポートで入ってもらえば、異世代交流や若者に生涯学習センターを知ってもらう機会にもなる。</li> </ul>

委員意見一覧① 生涯学習センター実施事業の課題について

生涯学習推進事業

事業名	課題	意見等
<p>学習 情報 発信の 収集</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り扱う情報数の増加と質の向上が課題です。一方で流通する情報量は膨大であるため、どの分野を集中的に収集、発信するか検討する必要があります。</li> <li>・市民は多様な媒体から学習情報を得ているため、実情に沿った情報発信のあり方を研究する必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信の場として、利用者交流会・コンサート事業・生涯学習センターまつり等、種々の事業を総合的に活用する。</li> </ul>
<p>学習 相談</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習センターで取り扱っている情報やノウハウが相談内容の解決に活かしきれいていません。</li> <li>・職員ごとに対応能力が異なるため、学習相談能力の向上研修や窓口職員体制のあり方の検討が必要です。</li> </ul>	<p>※コンシェルジュ機能の充実のために 相談窓口の工夫 (現状)</p> <p>相談窓口がどこかわからない。 職員が窓口でパソコンを操作しているイメージ。 シルバークの管理員の固い雰囲気(服装・年配の男性) で、声をかけにくい。</p> <p>↓</p> <p>明るい、気軽に相談できる雰囲気づくり 服装等の工夫 若者の活用により、若者を呼び込む雰囲気づくり ブースを設ける等、相談窓口をわかりやすくする 建物1階のスペースを借りて、6階に呼び込む導線をつくる</p>

委員意見一覧① 生涯学習センター実施事業の課題について

生涯学習推進事業

事業名	課題	意見等
社会 講師教 派育 遣関 制係 度事 業業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民への制度周知が十分ではありません。</li> <li>・利用団体、講座内容が固定化傾向にあります。</li> <li>・講座への参加内訳をみると、申請団体の会員が中心で、地域住民の参加が少なくなっています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師への報酬額1団体12,000円は安すぎる。</li> <li>・行政にとって、まちづくりにとって、この事業はどのような意味があるのか、を議論していく必要がある。</li> </ul>
ボラ ン生 テ涯 ィア学 バ習 ンク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民への制度周知が十分ではありません。</li> <li>・生涯学習ボランティアの活動件数が年間30件程度となっているため、活動の場や機会を増していく必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に働きかけを行う。</li> <li>・ボランティアと一口に言っても、例えば、高齢者を教えるのと子どもを教えるのでは求められる技術が全然違う。依頼側とのミスマッチが生ずると、ボランティアの活用は進展しない。</li> <li>・生涯学習センターは、ボランティアの登録を受付けるだけでなく、その人が持っている能力を現場で活かし、独り立ちして活躍できるようになるためのノウハウを指導する役割を担うべきである。</li> </ul>
連 携組 織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さがまちコンソーシアムとの連携事業を生涯学習センター単体で行っているケースが多いため、これを市役所内各部署に広め、町田市として幅広くさがまちコンソーシアムを活用する必要があります。</li> </ul>	

委員意見一覧① 生涯学習センター実施事業の課題について

施設貸出事業

事業名	課題	意見
(生涯学習センターホール、諸室)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習センター事業と一般団体への貸出事業の施設利用の割合のあり方を検討する必要があります。</li> <li>・利用率の低い保育室や和室について、利用率の向上を検討する必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※若者の利用を増やすために。</li> <li>・ボランティアや臨時職員として、受付に若者を配置して、若者が若者を呼ぶ仕組みを作る。</li> <li>・勉強室として、部屋を開放する。</li> <li>※和室の利用が少ないことについて</li> <li>・和室の設えを変えることも考えたほうが良い。</li> </ul>
特別教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市立小中学校の中で4校のみが当該制度の対象施設となっており、地域住民に対してどのような形で学校施設を開放していくか幅広く検討する必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習センターの事業で教室を利用することを検討されたい。</li> </ul>

委員意見一覧② ことぶき大学と市民大学の機能強化への取り組みの方向性について

項目	委員	A	B	C	D	E	F	G
改革案のコンセプト		市民大学の講座内容の改善	市民大学に地域学習を導入	市民大学に新講座を設置	市民大学を改称、講座を再編・拡充	ことぶき大学・市民大学の統合(All & Whole町田型学習事業へ転換)	ことぶき大学・市民大学の統合(講座再編、新コース設置)	ことぶき大学に上級コースを設置
大学等の新名称				総合まちだ学講座	市民総合大学、まちだ塾、まちだアカデミア等	いいまちだ学習大学	町田いきいき市民大学	まちだシニア大学院
受講対象者		誰でも	誰でも	誰でも	誰でも	誰でも(現役の中高大学生含む)	誰でも	55歳～85歳
学習手法		大学個別ゼミ、NPO、学校ボランティアとの連携	グループワーク、調べ学習、インターシップ	居住地やテーマごとにグループを編成し、学習の進め方や内容を検討			サークル活動、施設実査等を行う(人材育成コース)	地域ごとにグループを編成し、学習の進め方や内容を検討
講座内容等		◇前期:講義とディスカッション ◇後期:課題解決型学習 調べ学習、成果発表	◇地域学習1(地域の仲間と語ろう) ◇地域学習2(地域の活動を探る。卒業後1年間の行動計画作成、行動結果を発表)	◇前期:町田に関する学習 ◇後期:テーマに分かれ調べ学習。修了式に班ごとに成果と行動計画を発表。	◇町田を歩こう講座(旧健康・自然:正しいウォーキング、町田の自然巡り)◇町田の成り立ち講座(旧歴史:郷土史、地質学、焼物等)◇ボランティア養成講座(旧環境・福祉:環境保全、福祉・介護支援、子ども支援、災害支援)◇地域リーダー養成講座(旧人間・国際:コミュニケーション、ファシリテーター、レクレーション、心地よい居場所づくり)	◇こころもからだももっと元気学部(健康・福祉学部) ◇もっと知りたい、もっと理解したい学部(教養学部:政治、経済、国際、歴史、文化等)◇もっといいまちだ!学部(まちだまち、人づくり学部)◇共通必須科目(行政機関、ボランティアセンター、社協、国際交流センターを理解する講座)	◇基礎コース(ことぶき大学の既講座)◇専門コース(市民大学の既講座に社会問題、時事問題、多文化共生、憲法、AI、IT、起業の講座を加える)◇人材育成コース(学習者の自主性尊重、地域活動支援員育成、卒業論文作成)	◇第1学年:多様なテーマの学習 ◇第2学年:前期は講義、後期はゼミ型学習 ◇第3学年:前期はゼミ型学習、後期は地域ごとのグループワーク
開講日時				土曜日3～4時間		土日、長期休暇活用		平日午前10時～12時
受講期間				半年～1年		2～3年	1～2年	3年間(進級制)
受講料(講座数)				3,000円(15講座)		有料(低額)または無料		年間3,000円(18講座)
卒業後の活動			地域活動(活動する場所をあらかじめセットする)	まちだ学コーディネーターの会(仮称)として活動		◇地域コーディネーター◇有料ボランティア(地域の生涯学習事業、行政、学校等)◇修了生コーディネーター(個人志向型学習のサポート)	卒業論文「生涯学習での学びと私の目指す社会貢献活動」に基づいて実践	◇地域活動(福祉ボランティア、学校支援等)◇シニア大学院サポーターズ(仮称)として活動

第3期町田市生涯学習センター運営協議会委員名簿

NO	氏名	ふりがな	選出区分	備考
1	岩本 陽児	いわもと ようじ	学識経験を有する者	副会長
2	辰巳 厚子	たつみ あつこ	学識経験を有する者	
3	中村 香	なかむら かおり	学識経験を有する者	
4	大野 浩子	おおの ひろこ	家庭教育支援活動の経験を有する者	
5	島田 忠次	しまだ ただつぐ	市民のうちから公募したもの	
6	白崎 好邦	しらさき よしくに	市民のうちから公募したもの	
7	前田 美幸	まえだ みゆき	市民のうちから公募したもの	
8	太田 まゆみ	おおた まゆみ	学校教育の関係者	
9	陶山 慎治	すやま しんじ	生涯学習又は社会教育の活動の経験を有する者	
10	中里 静江	なかざと しずえ	生涯学習又は社会教育の活動の経験を有する者	
11	柳沼 恵一	やぎぬま けいいち	生涯学習又は社会教育の活動の経験を有する者	会長
12	上村 まり	かみむら まり	生涯学習又は社会教育の活動の経験を有する者	

第3期町田市生涯学習センター運営協議会（第1回～第18回）		
	<日時>	<議題>
第1回	2016年5月30日（月） 15:00～17:00	1. 委嘱書伝達式 2. 議題 ① 正副委員長の選出 ② 各種委員の選出 3. 協議会の進め方について ・事務局説明 4. 「生涯学習センターの機能について」（講演） 町田市社会教育委員 藺田 碩也 氏
第2回	2016年6月23日（木） 9:30～11:30	1. 生涯学習センターの役割と機能について 2. 協議事項 （1）2016年度生涯学習センター事業の企画について 3. 報告事項 （1）センター長報告 （2）事業報告 （3）東京都公民館連絡協議会の活動について 4. その他 （1）ロッカー抽選の立会人の選定について（お願い）
第3回	2016年8月29日（月） 15:00～17:00	1. 生涯学習センターの役割と機能について 2. 協議事項 （1）2016年度生涯学習センター事業の企画について （2）事業評価について 3. 報告事項 （1）センター長報告 （2）東京都公民館連絡協議会の報告
第4回	2016年9月27日（火） 15:00～17:00	1. 生涯学習センターの役割と機能について ・市民大学の現状と課題について 2. 協議事項 （1）今後の事業評価の方法について （2）事業評価について 3. 報告事項 （1）センター長報告 （2）東京都公民館連絡協議会の報告
第5回	2016年11月21日（月） 9:30～11:30	1. 生涯学習センターの役割と機能について ・市民大学の現状と課題について

		<p>2. 協議事項  (1) 事業評価について</p> <p>3. 報告事項  (1) センター長報告  (2) 町田市生涯学習審議会の報告  (3) 東京都公民館連絡協議会の報告  (4) 今後の企画について  (5) 事業評価の最終報告</p>
第6回	2016年12月22日(木) 15:00~17:00	<p>1. 生涯学習センターの役割と機能について  ・公民館事業の現状と課題について</p> <p>2. 協議事項  (1) 事業評価について</p> <p>3. 報告事項  (1) センター長報告  (2) 町田市生涯学習審議会の報告  (3) 東京都公民館連絡協議会の報告  (4) 今後の企画について  (5) 事業評価の最終報告</p>
第7回	2017年1月24日(火) 9:30~11:30	<p>1. 生涯学習センターの役割と機能について  ・公民館事業の現状と課題について(継続)</p> <p>2. 協議事項  (1) 事業評価について</p> <p>3. 報告事項  (1) 事業評価の最終報告  (2) センター長報告  (3) 町田市生涯学習審議会の議論について  (4) 東京都公民館連絡協議会の活動について  (5) 今後の企画について</p> <p>①コンサート事業「モンゴルの民族楽器 馬頭琴の調べ〜”スーホの白い馬”の世界」(3/11開催)</p>
第8回	2017年2月21日(火) 9:30~11:30	<p>1. 生涯学習センターの役割と機能について  (1) 生涯学習推進事業等の現状と課題について  (2) 生涯学習センターの課題について(まとめ)</p> <p>2. 協議事項  (1) 事業評価について</p> <p>3. 報告事項</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 事業評価の最終報告</li> <li>(2) センター長報告</li> <li>(3) 町田市生涯学習審議会の議論について</li> <li>(4) 東京都公民館連絡協議会の活動について</li> <li>(5) 今後の企画について</li> </ul>
第9回	2017年3月27日(月) 15:00~17:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 次年度の市民企画講座について</li> <li>2. 生涯学習センターの役割と機能について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生涯学習推進事業の現状と課題について(まとめ)</li> <li>(2) 次年度の運営協議会の進め方について</li> </ul> </li> <li>3. 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民大学について</li> </ul> </li> </ul>
第10回	2017年4月27日(木) 10:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯学習センターの役割と機能について 市としてどう考えるか~課の仕事目標を参照して~</li> <li>2. 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 事業評価の最終報告</li> <li>(2) センター長報告</li> <li>(3) 町田市生涯学習審議会の議論について</li> <li>(4) 東京都公民館連絡協議会の活動について</li> </ul> </li> </ul>
第11回	2017年5月25日(木) 10:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯学習センターの役割と機能について —これまでの生涯学習に関する答申等を踏まえ、これからの生涯学習センターの「目指すべき姿」を検討する—</li> <li>2. 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 事業評価の最終報告</li> <li>(2) センター長報告</li> <li>(3) 町田市生涯学習審議会の議論について</li> <li>(4) 東京都公民館連絡協議会の活動について</li> </ul> </li> </ul>
第12回	2017年7月21日(金) 10:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯学習センターの役割と機能の意見集約</li> <li>2. 事業報告書の書式について</li> <li>3. 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) センター長報告</li> <li>(2) 2018年度まちだ市民大学HATSの準備について</li> <li>(3) 町田市生涯学習審議会の議論について</li> <li>(4) 東京都公民館連絡協議会の活動について</li> </ul> </li> </ul>
第13回	2017年9月20日(水) 13:00~16:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 2017年度上半期の事業報告について</li> <li>2. 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) センター長報告</li> </ul> </li> </ul>

		(2) 町田市生涯学習審議会の議論について (3) 東京都公民館連絡協議会の活動について
第14回	2017年10月30日(月) 10:00~12:00	1. 生涯学習センターの役割と機能について ～これからの生涯学習センターの「あるべき(目指すべき)姿」とその「具体策」～ 2. 報告事項 (1) センター長報告 (2) 町田市生涯学習審議会の議論について (3) 東京都公民館連絡協議会の活動について
第15回	2017年11月27日(月) 15:00~17:00	1. 生涯学習センターのあるべき姿の実現に向けた具体的な事業について 2. 報告事項 (1) センター長報告 (2) 町田市生涯学習審議会の議論について (3) 東京都公民館連絡協議会の活動について
第16回	2018年1月29日(月) 10:00~12:00	1. 生涯学習センターの役割と機能について ・報告書作成の検討 2. 報告事項 (1) センター長報告 (2) 町田市生涯学習審議会の議論について (3) 東京都公民館連絡協議会の活動について
第17回	2018年2月19日(月) 10:00~12:00	1. 生涯学習センターの下半期の事業報告 ・報告書案の検討 2. 報告事項 (1) センター長報告 (2) 町田市生涯学習審議会の議論について (3) 東京都公民館連絡協議会の活動について
第18回	2018年3月19日(月) 15:00~17:00	1. 生涯学習センター運営協議会報告書について 2. 報告事項 (1) センター長報告 (2) 町田市生涯学習審議会の議論について (3) 東京都公民館連絡協議会の活動について